

※一部非公開

令和四年度入学試験問題（学校推薦型選抜Ⅱ）

小 論 文

教育学部 学校教育教員養成課程

小学校教育コース 教科教育専攻 国語教育専修

注 意 事 項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は必ず解答用紙に記入すること。
- 三、解答用紙の他に、下書用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
- 四、解答時間は、一二〇分である。
- 五、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。
- 六、解答する際の字体は楷書とし、ていねいに書くこと。

非公開

問題

次の文章を読んで、あとの各問に答えなさい。

非公開

非公開

(永田和宏、『知の体力』、新潮社、二〇一八年、一四六〜一五一ページ、抜粋・一部改変)

問一 本文の内容を踏まえた上で、傍線部「短詩型文学の本質」について、筆者が指摘する形容詞をめぐる問題と関連させながら、説明しなさい。(二〇〇字程度)

問二 筆者の考えを踏まえ、「ヤバイ」ということばについて考える授業を構想し、その概要を述べなさい。(六〇〇字程度)

令和四年度入学試験問題（学校推薦型選抜Ⅱ）

小 論 文

教育学部 学校教育教員養成課程

小学校教育コース 教科教育専攻 国語教育専修

出題の意図

本専修では、国語科の豊かさを生かして、多様な素材文を提供し、受験生が付け焼き刃でない「国語科へのこだわり」「国語への思い」を持つているかどうかを、小論文試験において測りたいと考えている。

まず、これまで出題してきた試験問題を振り返る。平成三年度は、敬語についての素材文を用意し、地域によって異なりをみせる敬語体系について、小学校の言語使用状況も含めて考えさせた。平成三十一年度は、詩を通じて日本語の音声的特徴、および日本語のオノマトペによる表現の豊かさについて考えさせ、さらに授業構想させることにより、国語教育への構想力を測った。令和二年度には、俳句をあつかった素材文を二種類用意し、沖縄と本土の季節感のずれを沖縄の小学校で俳句学習を行う際にどのように克服させるかについて考えさせた。

本年度は、いわゆる若者ことばの「ヤバイ」という語の表現と短歌を通じて、文化的な価値観について深く考える素材文を用意した。問一では「ヤバイ」をはじめとする形容詞の問題と短詩型文学の本質を関連させて説明させることにより、論理的な記述力を評価する。問二では、素材文の筆者の考えを踏まえ、いわゆる若者ことばの「ヤバイ」について考えさせる授業を考えさせることにより国語教育への構想力を測りたい。

この入学試験問題を用いることにより、受験生が、教育学部学校教育教員養成課程のアドミッションポリシーにおける「一 教員として主体性を持ち、子ども及び社会と関わっていきたい人」「二 教育の理念と実践を広く深く学ぶ意欲のある人」に適う人材であるかどうかについても確認したい。